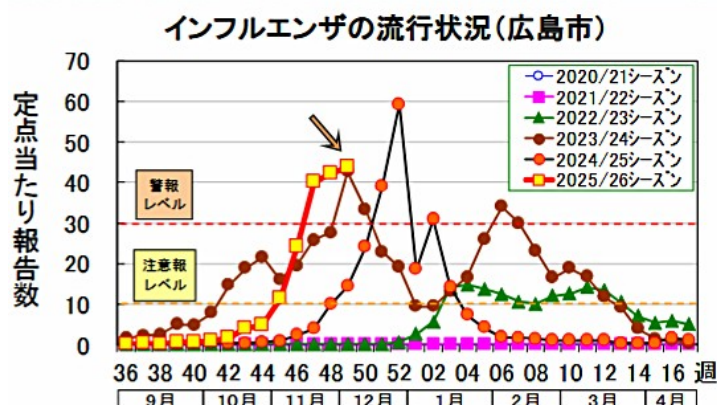


## 2025年第49週（12月1日～12月7日）

### 1 インフルエンザ

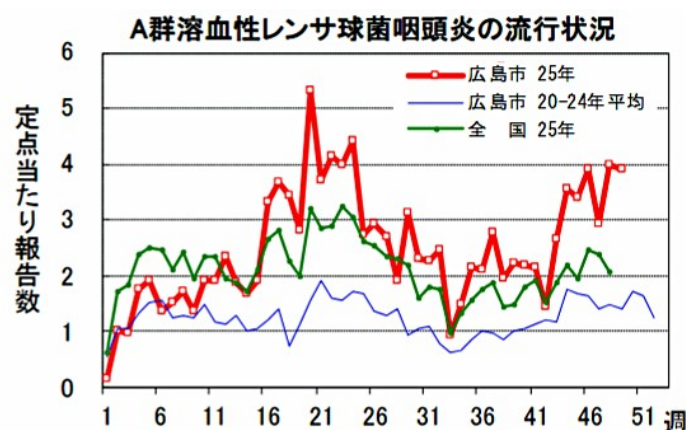
定点当たり43.71人の報告があり、多い状況が続いています。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告は64件と増加が続いています。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果（市内2か所の協力医療機関による）  
第49週 A型：282人、B型：3人



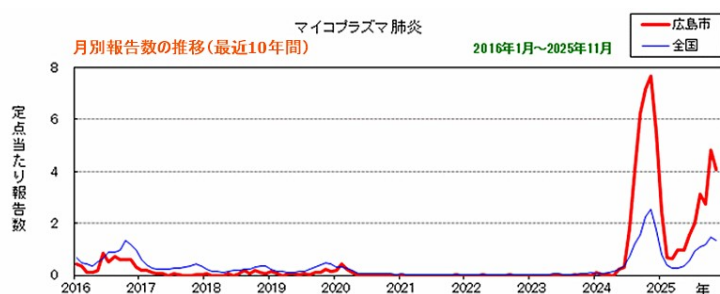
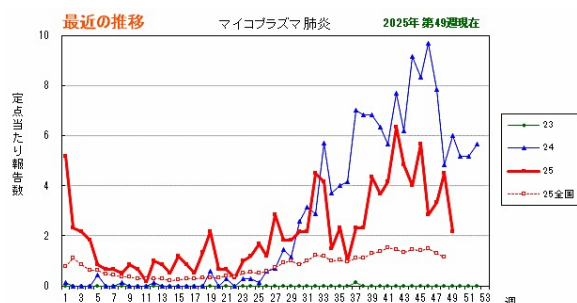
### 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり3.91人の報告があり、多い状況が続いています。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。



### 3 マイコプラズマ肺炎

定点当たり2.17人の報告があり、前週と比べて減少しましたが、多い状況です。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

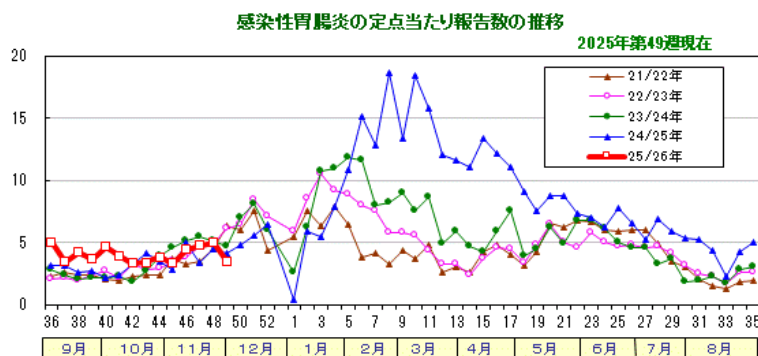


（4 RS ウィルス感染症は軽減傾向になりました）

### 5 感染性胃腸炎

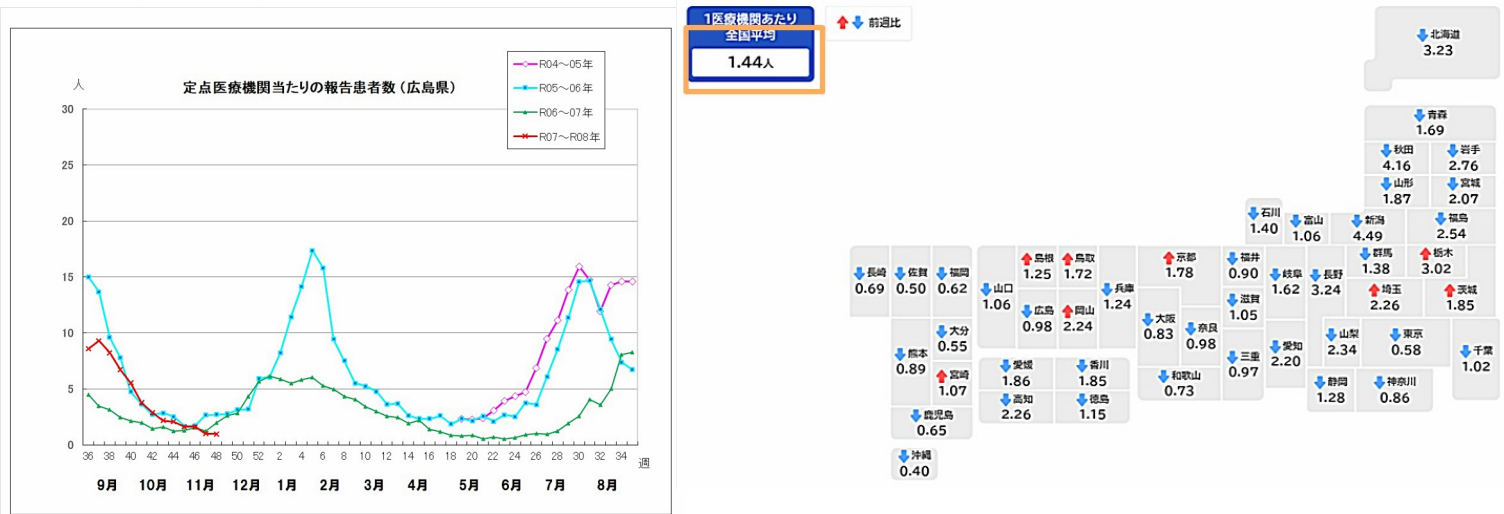
例年通りの推移ですが、これから増加傾向となりますので注意が必要です。

集団発生事例のの報告は10月以降は有りません。



## 6 新型コロナウイルス感染症：広島県

第48週（11月24日から11月30日）の広島県全体の定点当たり報告数は、0.98（報告患者数92人）で先週分（1.01・98人）と比べて横ばい状態です。



### 番外記事：

#### 1. インフルエンザ新変異株「K亜系統」が流行

先月下旬にメディアでこの文言が登場していました。

インフルエンザA型H3N2亜型の新たな変異株「K亜系統」が、日本を含む北半球全域で大流行している。同変異株は、日本、英国、カナダを含む多くの国々で優勢となっている。

■インフルエンザA型H3N2亜型の症状 インフルエンザA型H3N2亜型の一般的な症状は、すべてのインフルエンザウイルスと同様、発熱、咳、鼻水、倦怠感、筋肉痛、悪寒などが含まれる。ただし、H3N2亜型の感染は全年齢層で重症化する傾向があり、特に小児と高齢者は注意が必要だ。

■今年のインフルエンザワクチンはK亜系統に対して効果があるのか？ 現在の2025～26年インフルエンザワクチンは3価ワクチンで、2種類のA型インフルエンザウイルス株（H1N1亜型とH3N2亜型）と1種類のB型インフルエンザウイルス株に対する予防効果がある。ワクチンはH3N2亜型に対する予防効果を持つが、ワクチンの調製が開始されたのはK亜系統が確認される前の2月の時点だったため、変異したK亜系統には対応していない。

ワクチンはH3N2亜型に対する予防効果を発揮するため、K亜系統に対する完全な一致ではないものの、ある程度の効果を期待することができる。英国のデータによると、入院の可能性について、K亜系統に対するワクチンの予防効果は子どもの場合で最大75%、成人の場合は最大40%に達した。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/61a0411cc7d3ba14a7e91688bf09c3826f774683>

#### 実際のところは・・・AIの説明です

「これまで一般向けには出てこなかった“亜系統（subclade）”の情報が、なぜ最近マスコミで強調されるのか？」ということだと思います。

結論から言うと 科学的に必要な情報というより、ニュースとして“新しさ”を強調した結果、過剰に報じられている部分が多いというのが実情です。

##### 1. これまでNIID（国立感染症研究所）が一般向けに示していた枠組み

ウイルスの分類は、イメージとしては住所のような階層構造になっています。

①タイプ（A型／B型）最上位。A型とB型にまず分かれます。

②亜型（Subtype）＝HとNの組み合わせ 例 H1N1、H3N2

これはウイルス表面のタンパク（HAとNA）の種類によって決まる大分類。

③系統（Clade：クレード）HA遺伝子の変異の大きな塊（グループ）。木の「枝」くらいのイメージ。

④亜系統（Subclade） さらにその「枝先」で細かく分かれた小グループ。

基本的に「型 → 亜型」までで、A 型 H1N1pdm09、A 型 H3N2、B 型（山形系統／ビクトリア系統）というレベルでの説明が中心でした。

これは一般向けには十分で、ワクチン政策や流行状況の把握に必要な最小限の情報 だからです。

亜系統（subclade）まで言及する必要は通常ありません。

## 2.最近のメディアが取り上げる理由（科学的というより報道都合）

- ・コロナ以降、ウイルスの系統分類への関心が高まった

一般の人々にも「系統」「株」「亜系統」という言葉が知られるようになり、メディアが“細かい分類を出したほうがニュースとして目新しい”と思う傾向が生まれた。

- ・“新しい変異株”と報じたほうが注目を集めやすい

結果として、通常専門家しか使わない亜系統名をそのまま報道し本来必要ではない警戒感 を生みやすい。

- ・「K 亜系統」自体は珍しいものではなく、進化の流れの一部に過ぎない

H3N2 は元々変異しやすく、2～3 年ごとに主要系統が入れ替わるのは例年どおりの自然現象。

特別に“危険性が跳ね上がった”という意味ではない。

## A 型インフルエンザウイルスの 144 種類の亜型

HA NA	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	H1N1 1918年 スペインかぜ 2009年 新型インフルエンザ	H2N1	H3N1	H4N1	H5N1	H6N1	H7N1	H8N1	H9N1	H10N1	H11N1	H12N1	H13N1	H14N1	H15N1	H16N1
2	H1N2	H2N2 1957年 アジア かぜ	H3N2 1968年 香港 かぜ	H4N2	H5N2	H6N2	H7N2	H8N2	H9N2	H10N2	H11N2	H12N2	H13N2	H14N2	H15N2	H16N2
3	H1N3	H2N3	H3N3	H4N3	H5N3	H6N3	H7N3	H8N3	H9N3	H10N3	H11N3	H12N3	H13N3	H14N3	H15N3	H16N3
4	H1N4	H2N4	H3N4	H4N4	H5N4	H6N4	H7N4	H8N4	H9N4	H10N4	H11N4	H12N4	H13N4	H14N4	H15N4	H16N4
5	H1N5	H2N5	H3N5	H4N5	H5N5	H6N5	H7N5	H8N5	H9N5	H10N5	H11N5	H12N5	H13N5	H14N5	H15N5	H16N5
6	H1N6	H2N6	H3N6	H4N6	H5N6	H6N6	H7N6	H8N6	H9N6	H10N6	H11N6	H12N6	H13N6	H14N6	H15N6	H16N6
7	H1N7	H2N7	H3N7	H4N7	H5N7	H6N7	H7N7	H8N7	H9N7	H10N7	H11N7	H12N7	H13N7	H14N7	H15N7	H16N7
8	H1N8	H2N8	H3N8	H4N8	H5N8	H6N8	H7N8	H8N8	H9N8	H10N8	H11N8	H12N8	H13N8	H14N8	H15N8	H16N8
9	H1N9	H2N9	H3N9	H4N9	H5N9	H6N9	H7N9	H8N9	H9N9	H10N9	H11N9	H12N9	H13N9	H14N9	H15N9	H16N9

人で新型インフルエンザまたは鳥インフルエンザ発症がみられた亜型